**令和７年度 福島県障がい者相談支援（障がい者ケアマネジメント）従事者養成研修**

**演習事例**

**『事例の概要』**

**受講生の皆さんは相談支援専門員という想定で演習を行います。**

**７月某日**

**兄（県一）より、知的障がいを持っている弟（県二）の件で相談したいことがある…との電話が相談支援事業所に入り、詳細を伺うため面談を行う約束をした。電話では本人と同居していた母親が半年程前に他界し、現在は一人暮らしの状態とのこと。詳細は面談の時に確認することになった。**

|  |  |
| --- | --- |
| **７月〇日** | 本人が兄に連れられて相談支援事業所へ来所。兄から「本人の今後の生活について相談したい」とのこと。本人は緊張した様子で、兄と私の話を聞いている。 |
| **兄 県一：** | 「知的障害の県二は、ずっと実家で母親と２人で暮らしていましたが、半年程前に母親が心筋梗塞で急死してしまいました。母親が県二の身の回りのことみんなやっていましたので、県二は何もできません。母が亡くなった今は、自分が母親の代わりにやっていますが、仕事や家庭がありますので、毎日面倒をみることは出来ません。今のところは、市内に住んでいますので、仕事帰りに毎日のように県二の所に寄って、様子を見たり、夕食を届けたりしています。自分も仕事が忙しいですし、妻と子供２人もいますので、これから先もずっと今のような生活を続けていくことは出来ないと思っています。」 |
| **相談支援専門員：** | 「そうですか、お母さんが亡くなって大変なのですね。他にご家族はいますか?」 |
| **兄 県一：** | 「父親は今から5年前に亡くなり、他に親戚はいません。兄弟も私と県二の2人で、後は私の妻と子供2人です。現在、県二は実家に一人で住んでいますが、ほとんど何も出来ません。せめて自分の身の回りのことや掃除など家のことができればいいのですが・・・。掃除や洗濯はもちろん、強く言われないとお風呂も入りません。着替えもろくにせずに不潔になっています。お金もあればあるだけ使ってしまうので、必要な分を |
|  | その都度手渡しています。今は母が貯めていてくれた貯金が少しあるのでそれで何とかやっていますが、私から援助できるほど金銭的な余裕もないので、将来はお金の面でも心配です。食事や火の管理も心配ですし・・・。私も、たまに顔を出して様子を見るくらいならできますが、これから毎日物を買って持っていったり、洗濯などの援助をずっと続けることははっきり言って難しいと思っています。自分なりにいろいろ調べたら、県二でも生活していけそうなグループホームというところがあると知りました。今後はグループホームに入って生活してもらうように考えています。本人のためにもそれが一番安心だと思っています。」 |
| **相談支援専門員：** | 「そうですか…お兄さんがいろいろ協力してくれていて、今の生活をすることができていたのですね。お兄さんは仕事終わりにほぼ毎日来てくれているそうですが、昼間は何をして過ごしているのですか？」 |
| **兄 県一：** | 「…何してるんだっけ？まあ、お昼の弁当とか、足りなくなったもの（トイレットペーパーとか）は、買うように決めておけば、近所に買いに行く事はあるようです。一人で知らない所には行かないように言っています。両親が生きている時は、家が農家だったので、時々手伝うことはあったみたいです。でも、それ以外はテレビ見たり、ゲームしたり、なにやら作ったりしていたところはよく見かけました。」 |
|  | その後、いろいろ話を兄から聞くことができ、本人に対しても質問してみるが、兄の顔色をうかがい、兄の言うことに「うん」と返事をするのみだった。今回の面接では本人の希望を伺うことができなかったため、後日改めて家庭訪問をさせていただく約束をし、7月△日に相談支援専門員と二人で話をすることとなった。 |
|  |  |
| **７月△日** | 家庭訪問をして、本人と二人で話をする。先日に面接した時とは違い、本人は緊張した様子もなく、にこやかな表情で受け答えをしてくれた。 |

**兄の相談時の情報を整理すると…**

* 3歳児健診の時、発達の遅れを指摘される。市内の小学校知的障がい特別支援学級、特別支援学校中等部、高等部を卒業。小学6年生時に療育手帳取得。
* 養護学校卒業後は市内のクリーニング店に就職し、主に仕分けや配達の手伝いをしていたが、仕事のペースについていけなかったり、仕事をなかなか覚えられなかったりし、環境に馴染めず、数か月で徐々に行かなくなり、そのまま退職。
* 離職後は、両親も無理に就職を勧めなかったため、たまに実家の農業の手伝いをする他は、家でテレビを見たり、趣味のゲームやプラモデルを作ったりして過ごしていた。
* 両親は専業農家。父は5年前脳梗塞で倒れ、58歳で死去。母は半年程前心筋梗塞にて60歳で死去。
* 兄３５歳会社員。妻３３歳パート　長男小学１年生　長女２歳　の４人家族。
* 兄の住まいは、県二の住む実家から車で20分の距離の借家。
* 兄は仕事帰りや休日などの時間のある時に県二の様子を見に立ち寄り、夕食を届けたり、洗濯の援助をしている。
* 火の始末ができないので心配。小さい頃火遊びしてボヤを出したことがある。今は風呂の湯沸かしや調理はやらせていない。
* お金は、あれば好きなことに使ってしまうため、通帳は兄が預かり、一週間分の飲食代として、兄が７０００円を渡し、一日１０００円を目安につかうことができている。高額の計算は難しいが、日常の買い物は出来る。

今回の面接では本人の希望を伺うことができなかったため後日家庭訪問をさせていただく約束をした。

**７月△日　家庭訪問をして、本人と二人で話をする。**

　先日に面接した時とは違い、本人は緊張した様子もなく、にこやかな表情で受け答えをしてくれた。本人から聞き取りした内容は以下の通りである。

* 自分はこの家で生まれ育ち、両親との思い出がいっぱいある。
* 兄が毎日のように来てくれるのでとてもうれしい。
* 近所の人とも仲良くしており、時々民生委員も来てくれている。
* 年に１回あるお祭りは昔から行っており、毎年楽しみにしている。今年も行きたいと思っている。
* 母親が生きていたときは毎日食事を作ってくれていたが、現在はコンビニの弁当やカップラーメンなどが主であるため、だんだん飽きてきた。
* 母親が作ってくれていたようなご飯が食べたい。
* 洗濯は兄がやってくれているが、掃除や入浴は自分でやるようにと言われている。しかし、掃除は今まで母親がやってくれていたので、どのようにすればよいのか分からないし、入浴も面倒なのでほとんどしていない。（歯磨きは昔からやっているので、今でも毎日しているようである。）
* 買い物は兄にもらった小遣いで近所のコンビニに行き、弁当やジュースを買っている。
* 本当はプラモデルやゲームのソフトを買いたいと思っているが、兄はその分の小遣いは無駄遣いだと言って渡してくれない。
* 日中はゲームをしたり、テレビを見たりして過ごしている。独りで家にいるのはとても淋しい。
* この前、コンビニで養護学校のときの友達に偶然会い、その友達が通っている作業所「ひまわり」（正確には就労継続支援B型事業所であった）のことを聞いた。椎茸の仕事やときどき行事などもあり、とても楽しそうであった。給料ももらえるみたいなので、自分もそこに行きたいと思った。
* グループホームのことは兄から聞いた。自分は今後も実家で生活をしたいと思っているが、兄にグループホームは良い所だし安心だからと言われた。兄には母親が亡くなってから、とても世話になっているのでグループホームには行きたくないと言えなかった。